

DAIBIKYO

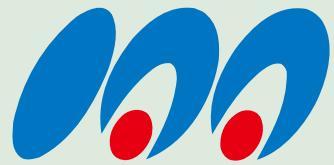
2023

令和5年号

VOL

64

大美協  
会報



■特集 —————

ウイズコロナあとさき

大垣美術家協会

# こんな時代の中で

緊張感なし よーしなどと  
意気込んでもおりませんから  
失敗はございません。  
泣きもしません。  
やつたーなどと喜びません。  
私は生成AIですから…  
ポンと落とした筆のあと  
一筆ごと泣き笑い。  
一杯やりたい いい気分  
失敗もあり成功もあり  
それが創作活動。  
あなたそのままの生成(きなり)  
楽しんでいますか…

大垣市長 石田 仁

皆様には、心新たに新年を迎えられました事、心からお喜び申し上げますとともに、この度、「大垣美術協会会報」第64号が刊行されます事、誠におめでとうございます。

大垣美術家協会におかれましては、昭和34年の創立以来、60年以上の長きにわたり、芸術文化活動の推進に格別のご尽力をいただいております事、厚くお礼を申し上げます。

また、会員の皆様には、「大垣市美術展」の運営協力や、「大垣美術家協会会報」をはじめ、各種展覧会への出品などを通じて、芸術文化の普及と発展に寄与していただいております事、心より敬意と謝意を表する次第でございます。

本市といたしましても、アフターコロナの時代へと移行する中、誰もが暮らしの中で質の高い文化に触れ、豊かな感性と創造性を育む「文化の薫り高いまち」を目指し、芸術文化事業の推進と、地域の活性化に取り組んでまいりますので、皆様には、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、大垣美術家協会の更なるご発展と、会員の皆様のご活躍とご健勝を心から祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



大垣美術家協会 会長 境 敏幸

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も感染症法上の位置づけが2類相当から季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられ、様々な場面で少しずつコロナ前の生活を取り戻しつつあります。大垣美術家協会の活動も秋の研修旅行など久しぶりに開催することができ大変嬉しく思っております。

当協会は昭和34年の創立以来、大垣市の美術・芸術・文化の更なる発展を目指し、会員の皆様のご尽力により一歩ずつ活動の輪を広げてまいりました。地域が誇る伝統をいかに次の世代へと継承し、磨きをかけていくのかが当協会に課せられた重要な責務といえます。

私ども大垣共立銀行も地域の芸術文化の発展を願い、平成23年大垣駅前に「OKBギャラリー」を開設いたしました。「大垣ゆかりの作家を中心とした洋画展」や大垣市内の小中学生の作品を展示した「ジュニア水彩展」など銀行主催の企画展を行うとともに、地域の皆様にも作品展示スペースとしてご利用いただいています。また、障がいの方や地元ゆかりのアーティストの芸術活動のご支援にも積極的に取り組んでおります。

今後も様々な方面から、市民の誰もが身近に芸術文化に触れる機会を創出し、文化の薫り高い大垣市の魅力を広く発信してまいりたいと考えております。

会員の皆様の益々のご活躍を心からお祈りいたします。

大垣美術家協会 理事長 久野 悟

コロナ禍でもがいた3年間を乗り越え、今年度は大美協展・総会・講演会・西濃美術展・研修旅行・新年互礼会・会報発行、すべて実施することができました。これに行政・賛助会員・会員の皆様のご支援・ご協力の賜物と厚くお礼を申し上げます。

また、各事業の運営に当たり、年間事業計画の通り役員会(年8回)・理事会(4)・各推進委員会(6)・会報委員会(5)等開催。大美協展等では、作品受付・展示・会場当番等を理事で分担。理事の平均年齢は80歳前後と高齢化が進む中、【大美協の3点の主張】の具現化を図るべく奮闘して頂きました。本当にありがとうございます。

私の知人で、こんな方があります。

- ・傘寿記念で初の個展開催。今年は続けて2回目の個展。そして「80歳代、人生で一番気楽で面白い!」と毎月登山にも。(男性A)
- ・「今、85歳。少し落ち着いたので、これから水彩道具を買って始めたい。」(男性B)

(自分がその年になつたらどうしているだろうか?)存在すら危ぶまれるところですが、理事の方をはじめ人生の先輩方の力強い生き方に、逆に背中を押される毎日です。

皆様には、この会報とともに5月の大美協展のご案内も送らせていただきました。皆様ご自身もご家族も心身ともに健康で、是非ご一緒できることを祈念しております。

記念展

大垣美術家協会 

第65回  
大垣美術家協会展

2023年

5月18日(木)～21日(日)

■午前9時～午後5時(最終日は4時迄)

大垣市スイトピアセンター  
文化会館

■4F A・B・C 3F A・C

出品点数

- 招待出品 ..... 11点
- 日本画 ..... 13点
- 洋画 ..... 52点
- 書道 ..... 45点
- 彫塑・工芸 ..... 23点
- デザイン ..... 5点
- 写真 ..... 46点

■合計 ..... 195点

[特別展示] 大美協65年の歩みパネル展



●入場者数 ..... 1,163人

協力事業

## 文化フェスティバル2023

第35回  
西濃美術展

2023年

9月7日(木)～10日(日)

■午前9時～午後5時(最終日は4時迄)

大垣市スイトピアセンター  
文化会館

■4F A・B・C 3F A・B

出品点数

- 招待出品 ..... 9点
- 日本画 ..... 19点
- 洋画 ..... 55点
- 書道 ..... 55点
- 彫塑・工芸 ..... 23点
- デザイン ..... 6点
- 写真 ..... 49点

■合計 ..... 216点

●入場者数 ..... 1,159人

コロナが5類になつても出品数増えず





大垣市スイティアセンター 2F スイティアホール  
■ 14:00~15:30

大垣美術家協会

## 記録と表現

◆  
写真家  
**近藤誠宏 氏**  
二科会写真部前理事長  
◆

写真家・近藤龍夫の次男として昭和16年5月23日。  
先の大戦の年に現住所で生まれた。

順調に育ち、県立岐阜商業に入学。入学式の大石校長先生の挨拶が今も思い出される。「君たち、天下に誇れる有能な資質を持った生徒が入学してくれました。3年後には学業はもとより、優秀な健康体で卒業されることです。大切に過ごして下さい。」だった。学業成績の言葉はなく、元気な健康が優先だったから遊べると思った。

当時は、全てに何もない時代であった。岐阜商業を選んだのも高校野球で甲子園出場の応援に行けるであろうことが目的であった。

3年次、私の席の後ろは高木守道さんで後の中日の監督で、彼は私と違い文武両道で優等生だった。

その頃になると写真への想いや将来が見えてきたので担任に相談して進学を決めた。担任は「近藤、後ろの席で受験勉強しろ」と言われた。父親には東京は駄目と言われ、名古屋の愛知大学法経学部を受験。あこがれの写真家、東松照明さんの出身大学に入学できた。心のうちにはフォトジャーナリストへの道があった。

多くの先輩が写真家として旅立っている写真部に入部した。

1964年、大学を卒業。上京、写真評論家の田中雅夫先生の紹介でマスメディアの広告代理店フォトルーム部に入部。当時、ここは日本一規模のスタジオがあり新車の撮影が出来た。暗室は4×5までのスライド現像ができ、ライトマン、進行、タレントルーム、スタイリスト、カメラマン、小道具係を合わせると総勢53人の陣容だった。スタジオは毎日忙しく、タレント待ちで夜中も使用された。

1966年、スタジオワークを習得したものの広告写真より自分の世界の写真を写したく退社した。

1973年、写真家としての実績が認められて、公益社団法人日本写真家協会に入会。32才、終身番号955。やがて息子の龍宏も入会したから、父子三代の所属は協会初となった。

父と写真活動をともにするようになったが、第一線で学んできた自負心が生意気になり父に反発。風土性ではなく違う方向を求めて、石油公害で関心を集めていた四日市石油コンビナート地帯を選んだ。

フォトジャーナリストとして使命感に駆られた挑戦だった。公害の現場での撮影は厳しく、夜の撮影では時には不審者と疑われ声をかけられた。

呼吸困難な患者、目には見えない公害を目の前にして模索し、初個展「匿名の町」を1973年、銀座ニコンサロンで発表した。

花の銀座での個展に多くの写真家が来館、アドバイスを受けた。中でも「君の写真は場所か」には考えさせられた。告発性よりも叙情性に

偏り、公害の内面に入り込めず、表現が弱かつたのであった。

個展後、暫くカメラを持てず考えた。「記録と表現」が生涯のテーマとなった。

自分の写真に目覚め、美術団体の公募では最大規模の二科展に応募し、9年後に特選2回・入選7回で会友に推挙された。その年、中部二科展に応募して外遊賞を受賞した。

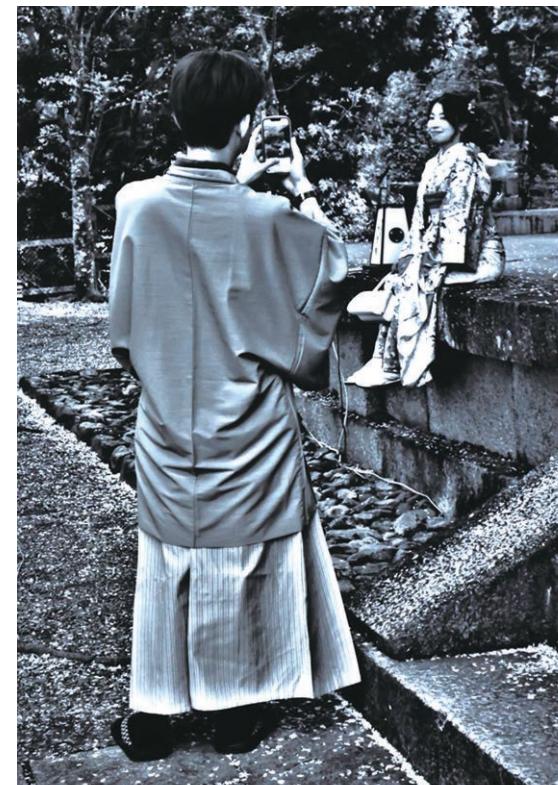
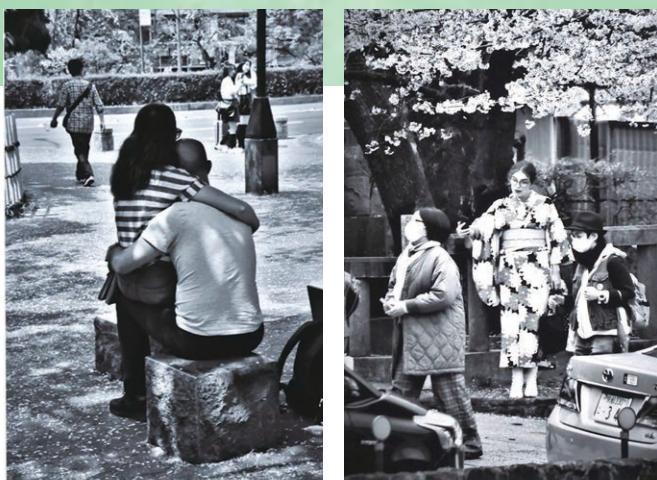
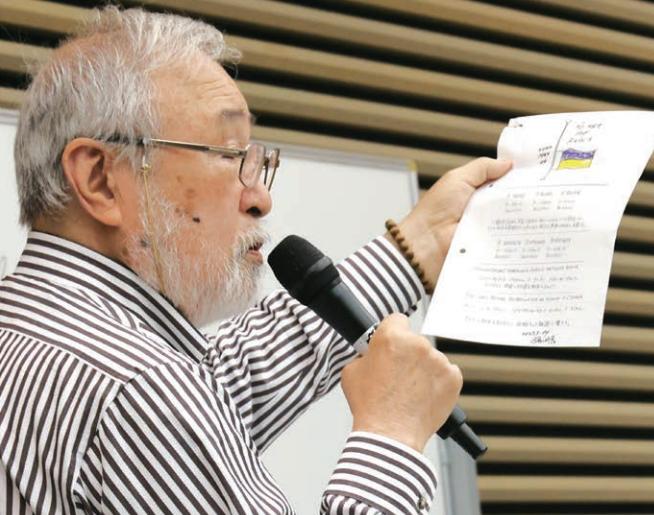
外遊先を決めかねていたとき、岐阜新聞の記事に岐阜県議会議員遺骨調査団が郷土部隊玉碎の地、中部マリアナ諸島への出発を知り、写真家として同行を申し出たところ快諾を得た。その後、個人的にも3度訪れ調査、収骨、取材した。

サイパン島・テニアン島。ジャングルの道なき道は標識もなく、生還者の記憶に委ねて歩き、方向もつかめず漂っていた。中でも島の北部の日本に少しでも近いところには自らが掘ったであろう一人窟が多くあった。ジャングルのタガタガンの雑木の根が、若くして亡くなった名もない兵士の遺骨に幾重にも絡み付き、頑丈で、手では離せず、繰り返しているうちに涙がとめどもなく流れた。



# 大美協 文化講演会

大垣美術家協会 



ずつ形作れるようになってきた。

7年後、写真集『京都点々累々』の出版記念展として銀座富士フォトサロンで開催。この時のこと�이いまだに忘れられない。それは、序文をお願いした濱谷 浩先生は奥さんが危篤状態にもかかわらず、快く引き受けいただき、序文の内容も私の心をはるかに越えたものだった。自筆の文をそのまま転載した。

信州伊那谷に操り人形淨瑠璃が5か所あることを知り、取材を開始した。

その内の黒田人形淨瑠璃の舞台は国宝であり、毎年神社の催事として上演されていた。大人の公演に先駆けて地元の中学生の課外活動として上演されている。

詰め襟の学生服、セーラー服による上演姿、地域の伝承伝統を受け継いでいく姿に心奪われた。

1998年、新宿ニコンサロン「黒田操り人形淨瑠璃」として発表した。

黒子姿で操る人形淨瑠璃よりも、やがて村人が、化粧鮮やかな人間そのものが演じる歌舞伎が全国にひろまっていた。我が地域の中仙道の村々でも地歌舞伎公演が、全国三大地としてささやかれるようになっていった。

遺骨を前に知らされることのない人、一人一人の死。短い人生、心なき姿。  
これらの強烈な体験に、心を終生のテーマとする動機になった。

帰国後、日本人の心のふるさと京都へ。以前よりも積極的に行くようになった。2年後、銀座ニコンサロンで「法悦視点」を発表した。この頃にはモノクロに抒情性を写し込む私の世界が少し

そんなおり、岐阜新聞社出版室より岐阜県内の歌舞伎本を出版したいとのことで依頼され、これがライフワークとなった。

歌舞伎の魅力は、非日常性、準備する姿を追いかながら、役者が役に入り込んでいく姿が、すごく新鮮に見えた。内なる心の姿が出てくる。それを自分が動きを読み込んで捉える。競合とうのだろうか、このやり取りがいい。

これらの取材分は1999年『美濃の地歌舞伎』として岐阜新聞社から発行された。以後『地歌舞伎振付師 松本団升』を撮影・出版。『ぎふ地歌舞伎衣裳』撮影・出版。これらの振興、保存活動をしているのが相生座館長・中仙道ミュージアム館長の小栗幸江さんであり、地域伝承伝統文化部門における彼女の存在は多大である。私が地歌舞伎の取材を始めたときは21団体が、現在の活動団体は32団体と云われている。

今回、展示している写真は、大垣美術家協会の会員である高木さんが考案された大変便利な額縁に入れている。じっくり見ていただきたい。

写真家である以上、写真愛好家との接点はある。指導では表現者としての心の持ちようを粘り強く伝える。単写真よりはテーマ性のある組写真、数点出品のグループ展より個展や物語のある写真集の発表を働きかけている。

権威をおもねる姿勢を厳しくいさめ、写真は己の心の写し絵。心の純粹性があればあるほどに、いい作品ができる。

入選・入賞せんが為、選者の傾向に合わせるようでは己の表現ではなくなる。

心したいものである。



大学でロシア語を専攻したこと少しあかる。  
こうした講演の場だがロシアのウクライナ侵攻について訴えたい。ヤークリチャーチ(私は叫ぶ)  
「ロシア兵士よ 野蛮で非情な戦争を止めよう。  
あなたは戦争を駄目とし、故郷、そして祖国に帰ろう。」



今回の、近藤誠宏講師の講演は、平成14年「“美濃の地歌舞伎”について」に続き、2回目となるものです。

また、講師の父親であります近藤龍夫氏も昭和59年「写真の話」で講演して頂きました。

# 第72回 大垣市美術展

# 2023 (令和5年度)

永いコロナ禍の中で変則的な開催が近年つづいた大垣市展が、やっと正常な形での開催となりました。開場テープカット、各部会場での講評会。市展ならではの懐かしい風景が帰ってきました。



開場式テープカット



表彰式



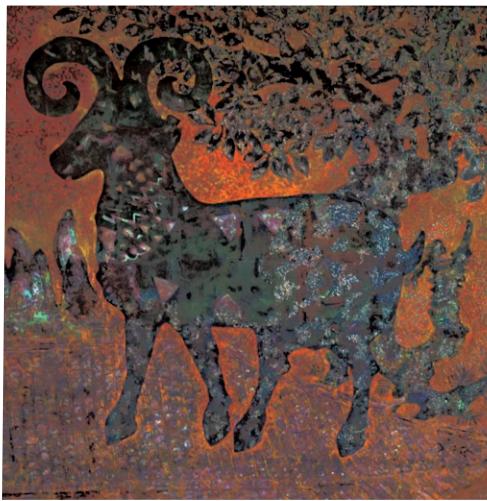
会場での講評会



◆受賞作品◆  
誌上展

## 受賞おめでとうございます

日本画



■市展賞—「シルクロード追想」  
杉野 茂樹



■市長賞—「里の春」 山口 和子  
◆議長賞—「山葵田」 古川 幸代

書道

◆議長賞—「狩行句集より」 平野 春湘

デザイン

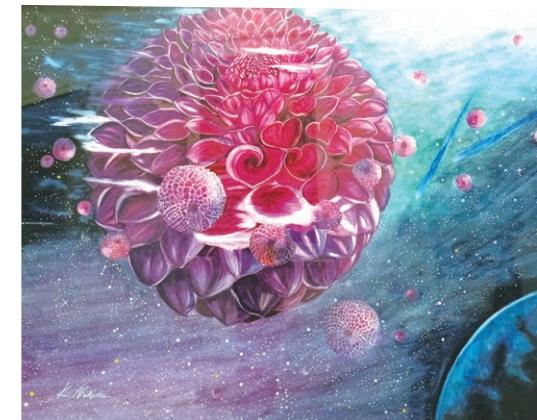
◆優秀賞—「鱗鳳亀龍」 河村 一雄

◆奨励賞—「KINGYO」 如月 れいな

## 受賞作品誌上展

(大垣協会員の内、市展賞、市長賞の作品のみ掲載致しました。)

洋 画



■市展賞—「宇宙のダリア」 中野 和代



■市長賞—「静穏」 所 陽子

◆優秀賞—「執金剛神」 磯部 範彦・「王家の谷のファンタジー」 森 多江子

◆奨励賞—「山桜」 石見 節雄・「気分は最高」 吉田 美幸・「燃ゆる」 磯崎 裕子・「白い器」 飯沼 孝司

彫塑工芸



■市展賞—「能面 恵比寿・大黒」 篠浦 浩二

◆教育長賞—「七宝 咲みだれ」 馬渕 たず子

◆優秀賞—「能面 大悪尉」 大江 英



■市長賞—「こころの花」 澤村 典子

写 真



■市長賞—「草間彌生の世界」 池田 繁行

◆議長賞—「力持ち」 小竹 隆

◆教育長賞—「文楽を受継ぐ」 神戸 孝司

◆優秀賞—「薄氷の煌き」 高田 輝男

◆奨励賞—「まきばの朝」 木村 定昭

「息を合わせて1.2.3」 江上 瑠美子

「少女の意気込み」 高木 早苗

# 大美協 国の内外 —この一年—

いろいろありました。  
2023年(令和5年)



京都の  
京セラ美術館、福田美術館へ…  
研修旅行-4年ぶりに開催

2023.9/23

ウィズコロナの中での内憂外患、尽きない国ごとの抗争。  
円安に物価高、わが大美協でも会員数、出品者の減少など、  
悩みの種は尽きません。2024年、腹のタツじゃなくて良き  
昇龍の年でありますように…

2022.2～ロシア・ウクライナ  
抗争収まらず



2023.9  
イスラエルの抗争激化

ウィズコロナあとさき



4年ぶりの新年互礼会開催

2024.1/21

WBC-侍ジャパン、9年ぶり3回目の優勝



2023.3～

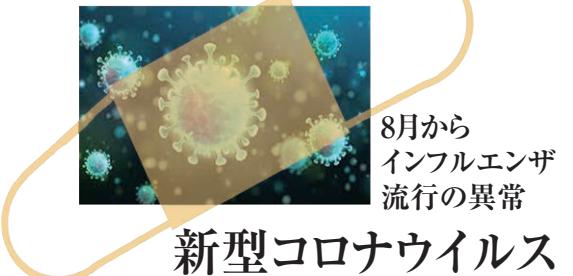
世界で活躍、日本の野球

大谷翔平選手MLBで日本人  
初のホームラン王獲得(44号)  
1,000億円でドジャーズへ移籍

MLBで  
吉田・鈴木・  
千賀・藤浪・  
菊池・前田  
選手の活躍  
目立つ…



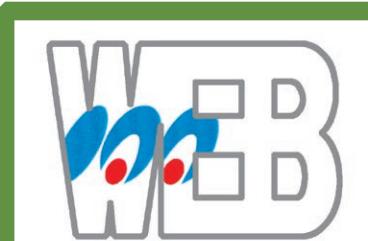
藤井聰太竜王・名人  
史上最年少(21才)で  
将棋八冠達成



8月から  
インフルエンザ  
流行の異常

新型コロナウイルス  
第5類に移行

2023.5



大美協HP  
(ホームページ)  
制作準備委員会発足



祭の復活

コロナ禍で中止になっていた  
西美濃一帯の祭行事が再開



4年ぶりに  
大垣市展の  
開場式開催  
協力事業

各部会場では、主任審査員による講評会も実施

止まらない  
諸物価の高騰  
公共料金・生鮮食品・  
生活用品など、  
数万点の値上げラッシュ!



会からの連絡、会員相互の  
交流に…  
理事会のLINE開設

2023.2

2024.1/1

震度  
列島  
震撼!  
能登半島巨大地震



わが会の  
名誉顧問で  
日展副理事長  
日本芸術院会員の  
土屋禮一氏の  
土屋禮一展-開催  
スイピアセンターアートギャラリーで開催  
9/23～11/26



地球沸騰!

世界で異常気象で災害続発  
東京の真夏日記録更新



2024.2  
第64号  
無事に発刊

王位  
棋聖  
人間  
王座

八冠

2024.1現在

ウィズコロナあとさき

# 大垣美術家協会研修旅行

■2023.(令和5年)9月23日(土・祝日)

京都市京セラ美術館・福田美術館見学 参加者—43名

コロナ禍の中、3年間延期になり、  
皆さんのご希望多い中、やっと実施の運びとなりました。  
初秋の京都路、二つの美術館を巡って、  
無事帰って参りました。



フランス、ルーブル美術館蔵の  
16~18世紀の名画74点を  
「愛を描く」の  
タイトルで展示(6.27~9.24)



京都市美術館改め  
新装になった京セラ美術館前景

話が弾む昼の時間  
(嵐山近くの食事処で)



画家、竹久夢二の  
肉筆画など  
「竹久夢二の全て」を  
鑑賞(7.14~10.7)



京都嵐山  
福田美術館前にて

昼食後、自由時間は  
嵐山、渡月橋付近の  
散策



4年ぶり

# 大垣美術家協会新年互礼会

■2024.(令和6年)1月21日(日) 午後6時~8時

大垣フォーラムホテル3F(青雲の間) 参加者—58名

4年ぶりの開催とあって、久しぶりのあの顔、この顔、ご無沙汰の話題も弾みます。ご無事を祝い、健康を讃えあって、めでたく納会致しました。



石田大垣市長ご挨拶



境会長挨拶

懐かしい顔、久しぶりの再会に会話も弾みます。



こんなお料理でした



久野理事長挨拶

令和6年大垣美術家協会新年互礼会



新しい仲間が増えました。



bingoで盛り上がる会場



# 会員の動向 2023 (令和5年)



日本画 洋画 書道 彫塑工芸 写真 合同



ご冥福をお祈り致します。

賛助会員 山川 隆司様(山川医院 院長)

会員 上田 省吾様(洋画)

会員 牧 明様(写真)



## ありがとうございました 賛助会員様

株式会社 大垣共立銀行  
イビデン株式会社  
西濃運輸株式会社  
太平洋工業株式会社  
河合石灰工業株式会社  
揖斐川工業株式会社  
岐建株式会社  
矢橋工業株式会社  
サンメツセ株式会社  
大垣西濃信用金庫  
日本耐酸塗工業株式会社  
岐阜倉庫運輸株式会社  
大垣瓦斯株式会社  
株式会社 ホンダカーズ東海  
クインテッサホテル大垣  
株式会社 大光  
株式会社 三輪酒造  
株式会社 アレックカワイ  
オイダ額縁有限会社  
ギヤラリーはたの  
金蝶園総本店  
(有)タケナカ商店・タケナカ文房具店  
株式会社 大垣ケーブルテレビ  
小菅巧芸社  
医療法人 石泉会 和田医院  
山川医院  
株式会社 箕浦  
安田電機暖房株式会社  
株式会社 エヌビーシー  
株式会社 大垣自動車学校  
株式会社 セリア

## 編集後記

晴れたり曇ったり、コロナは晴れても心は闇だ、とは申しませんが、5類になったコロナに代ってのインフルエンザ騒ぎ。

収まりのつかないウクライナの紛争、またまた始まったガザ地区での抗争。

諸物価のこれでもかの高騰、円安の再騰、下がらないガソリン価。

一方では人知、人力無用の生成AIの進化。今、人の世は“晴れ”でいるのでしょうか。

4年ぶりに、会の研修旅行も新年互礼会も再開されました。大垣市展の開場テープカットの懐かしい風景も甦りました。

これからこれから、せめて心は“晴ればれ”と、美術、芸術を友として過ごしていきましょう。



**大垣美術家協会**

編集委員 —————

日本画……堀 みどり  
洋画……小藪 達也  
書道……小川 東歩  
彫塑工芸…山口 實  
写真……林 孝弘  
デザイン…金森 一意(会報委員長)

[発行期日] 令和6年2月

[発 行] 大垣美術家協会

[印 刷] サンメツセ株式会社